

日本保健物理学会「教員等協議会・若手研・学友会」代表者会議（第11回）

日時：令和3年5月11日（火）9時-10時

参加者：（教員等協議会）飯本（理事）、安岡（理事）

（若手研）迫田（理事）、辻、渡邊、中畠

（学友会）小池、福田

概要：

●第10回（拡大教員/若手/学生の会）を受けた今後の展望

・若手研が主催し、医薬・医療技術系の学生をターゲットとする勉強会を秋に開催（保物秋の学校のようなもの）を実施するのはどうか。

→若手研メンバーの負担となることが懸念。また、大学には学生を派遣する（予算的な）余裕はあるか。

→医薬・医療技術系の学生が保物学会で研究発表するのはハードルが高いと思われる。勉強会のような場だと参加しやすいのでは。

→保物の研究発表会は、今後秋から冬にかけて開催されるので、たとえば保物秋の学校を研究発表会と同時期に実施し、その中で、研究発表枠ではないが、学生が、大学での実習内容、自らの活動経験などについてプレゼンする時間を設け、アウトリーチの経験を積み、コミュニケーションスキルやプレゼンスキルを向上させる機会とするのはどうか。さらに、このような発表についても教員協議会・若手研・学友会として賞を設けるのはどうか。

・医薬・医療技術系であっても保健物理、放射線測定をしている学生は学友会の活動に取り込めるのではないか。

→薬学部の学生は実習が長いので、複数のイベントに参加するのは難しい。5年生は実習で22週間、さらにその前の2週間は自宅待機となる。6年生は研究が終わり、国試に向かうこととなる。タイミングが合えばイベントに参加し、社会に出る前に発表の経験を積む機会とする、という位置付けで考えている。

・薬学部で博士課程に進む学生はいるのか。

→薬学部だと学部6年。博士の学位を取得するにはさらに4年が必要。また他大学院の場合には修士を経る必要があるため、博士に進むより現場に出る学生の方がずっと多い。

・医療技術系の学生は、各学年1人くらいは保健物理に興味をもつ学生がいる。そのような学生にいかにか声を届けるか。学会員でない方をどこまで呼び込めるか。

→医薬・医療技術系にアプローチするにはそういうニーズを掘り起こす必要がある。

→技師の先生には保健物理に入っている方もいる。

●放射線安全管理学会との連携について

- ・両学会で昨年夏に実施されたアンケート結果に基づき合同 WG で整理された提言について、5月27日に合同理事会を開催して議論する予定。今後の合同大会など、放射線安全管理学会との連携について、若手からの意見、考え、注意すべきことなどがあれば5月27日までに飯本理事へ。
- ・放射線安全管理学会には技術系の会員もいるはず。現場の中で何かを見つけて発表したいという会員もいるのではないか。放射線安全管理学会に若手の集まりがないのであれば、保物学会の若手研に所属いただいても良い。
- ・2学会合同 WG は今後発展的に解消し、新たな体制として検討を継続することとなる。若手にも参画いただくことになるだろう。

●学会の今後の動き

- ・保物の研究発表会は、今後秋から冬にかけて開催、放射線安全管理学会との合同大会を開催する場合も変更なし。6月には総会と様々な企画を行う。
- ・2021年大会（放射線安全管理学会と合同）はオンライン開催となった。2022年大会は単独開催の見通し。2023年の保物の研究発表会は、ICRP2023を日本に誘致しているため、ICRP2023の実施時期、実施会場に合わせて開催することとなる。放射線影響学会も同様の動きがある。2023年は隔年の方針に従えば合同大会の年となるが、放射線安全管理学会も加わるかどうかは不透明。若手としては、2023年に向けて何ができるか、長期的なスケジュールを組んで欲しい。

●次回日程

6月29日（火）9:00-10:00

以上